

電子情報システム工学専攻			電子情報システム工学特別研究				
学年	専攻科2年	担当教員名	野口 孝文				
単位数・期間		10単位	通年	週当りの開講回数	3回	専門展開・必修	学修単位3
授業の目標と概要		研究の遂行を通して高度な専門知識や実験技術を修得し、継続的に学習する能力を育成する。研究・設計などの活動における知識や技術の必要性を認識する。さら、研究遂行において修得した知識や技術をもとに創造性を発揮し、計画的に実行する能力、論文作成・研究発表により文章表現力、プレゼンテーション、コミュニケーション能力を育成する。					
		釧路高専目標	B:10%,D:25%,E:0%,F:10%,G:15%		JABEE目標	d-2-b,d-2-c,d-2-d,e,f,g	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		特別研究は本科の卒業研究を含む3年間、あるいは、専攻科の2年間でとうして一つの課題に取り組むものであり、長期間にわたる。指導教員の指示だけでなく、自発的に計画的に遂行することに心がけること。					
到達目標		論文調査などにより、研究の背景、社会のニーズなどを理解できる。課題解決を計画的に遂行できる。研究成果の社会への影響を考察できる。日本語による論理的な報告書作成とプレゼンテーション、英語による概要説明ができる。					
成績評価方法		特別研究は2年間にわたるため、別紙の評価方法によって全体を評価する。 1年目では評価を決定しない。 別紙評価方法に従い、60点以上で合格である。					
テキスト・参考書		各指導教員の指示による					
メッセージ		長期にわたり、一つのテーマを追求するので、自発的な学習、創造性の発揮、計画的な遂行が重要である。指導教員との話し合いを密にし、定常的な学習・研究が必要である。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
1 実験および結果の整理 2 実験結果とシミュレーション結果の比較 3 検討及び考察 4 実験結果、考察とまとめ				特別研究に関する実験ができる。 特別研究の実験結果の論理的な考察ができる。			
前期中間試験				実施しない			
5 学修成果レポートの中間発表 6 学修成果レポートの作成				学習成果レポートの内容、構成、強調点が明確に説明できる。 学習成果レポートを計画的に作成することができる。			
前期期末試験				実施しない			
7 学修成果小論文試験準 8 特別研究論文の作成				学修成果レポート試験の準備として、関連する技術を調査できる。 特別研究論文を計画的に作成できる。			
後期中間試験				実施しない			
9 学修成果小論文試験 10 特別研究論文の作成 11 特別研究発表会準備 12 特別研究の学外の口頭発表				学修成果小論文試験ができる。 特別研究論文を計画的に作成できる。 特別研究成果を文章や図、表を用いて纏めることができる。 今後の発展を見据えて成果を纏めることができる。 特別研究成果を説明できる。 特別研究発表の質問に対して適切に答えることができる。			
後期期末試験				実施しない			